

第1号議案

平成30年度事業報告

1 公益目的事業

(1) 対馬丸記念館の管理運営事業

対馬丸記念館の管理運営に資するよう事業の円滑な遂行に必要な協議を行うために内閣府、県及び厚生労働省(オブザーバー参加)の関係部署並びに対馬丸記念会を構成員とした「対馬丸平和祈念事業協議会」の幹事会に参加し、来館促進等をテーマに協議した。

ア 常設展事業

公益財団法人として記念館の展示を通して対馬丸事件の歴史と教訓を伝えながら、二度と悲しみを繰り返さない「学びの場」、平和の種を蒔く施設として引き続き平和の発信に努める必要があり、記念館設備の改修等により、館内環境の改善と来館者の安全確保を図った。

- ・エレベータ基盤取替え 294,000円
- ・展示室空調機基盤取替え 118,800円
- ・展示室空調機冷媒ガス漏れ修理 54,000円

イ 特別展事業

(ア) 「かくして沖縄は戦場になった」

戦争を知らない世代が社会の大多数を占める中、「迫りくる戦争の足音を感じながら、沖縄の人々はどのような暮らしをしていたのか」、「なぜ沖縄が戦場になったのか」、「73年前の沖縄で、住民を巻き込んだ地上戦がどのような様相であったか」をテーマに第32軍の配備から疎開、10・10空襲、沖縄戦前夜までを年表、写真、資料パネルでたどった。

開催期間 平成30年8月15日～9月9日 22日間

観覧者 1,590人(県内477人、県外1,065人、国外48人)

(イ) 「第66回全琉図画・作文・書道コンクール那覇秀作展」

平成30年9月行われた沖縄タイムス社主催の第66回全琉図画・作文・書道コンクールにおいて最優秀賞、優秀賞に入選した作品のうち、那覇市内の小・中学校の児童、生徒の作品を展示した。

展示会をとおして児童、生徒や学校あるいは地域と記念館をつなげて、地域の人々や学校関係者、家族に記念館への来館を促し、改めて記念館の存在や展示の趣旨を訴え、記念会活動への理解を

深める機会とした。

開催期間：平成30年12月21日～平成31年1月27日
30日間

観覧者1,462人(県内435人、県外1,000人、国外27人)

ウ 対馬丸及び学童疎開に関する調査・研究事業

対馬丸事件の歴史に関する資料、証拠の収集に努め、学童疎開に関する戦前、戦中、戦後にわたる世の中の動向や情勢を調査、研究し、常設展並びに特別展の展示資料の充実を図った。

また、記念会が発行する刊行物等の基礎資料として活用した。

エ 来館促進支援事業

対馬丸事件の史実と教訓を広く世の人々に伝え訴えるという記念会の目的を達成するための活動の拠点として設置した記念館を維持し、今後もこの活動を続けていくため、来館促進活動を行ってきた。

記念館訪問の呼びかけについては、県内全小・中学校402校に記念館パンフレットとともに、記念館の利用方法を具体的に例示した資料を添付し、担当者が選択しやすい材料として提供した。

また、那覇市観光協会が運営する「那覇てんぶす館」、「那覇港クルーズターミナル」や国際通り周辺から記念館に到る地域のホテル約110軒や観光案内所等に記念館パンフレットをあずけ、観光客への周知を図った。

展示については、慰霊碑紹介コーナーを改装し、悪石島、宇検村を含めた三つの慰霊碑の状況と近隣の小学校児童の清掃活動などを改めて紹介した。

さらに記念館内の遺影7件と刻銘2件を追加掲示した。

- ・展示パネル張替え 410,400円
- ・遺影追加、刻銘版張り変え 54,000円

平成30年度入館者数…添付

(2) 対馬丸戦没者の追悼と遺族等の福祉の向上並びに地域住民との交流促進

ア 対馬丸戦没者の追悼と慰霊祭の実施

8月22日に小桜の塔において遺族、生存者、関係者等が参加して犠牲者の冥福と世界の恒久平和を祈念した。

参加者 約400人

イ 語り部事業

小・中学校等からの依頼に応じて、生存者、遺族等の語り部によって県内外で講話を実施した。

実績 延べ119回 内訳：館内73回、館外46回、県外3回
受講者：延べ13,632人

ウ 相談事業

遺族や関係者が日常の生活において抱える法律問題や家庭経済、家族の課題などに取り組むための助言、相談を行う場を設定するための事業を行った。

実施に先立ち、遺族、親族等の現況を把握するため訪問調査を行い、課題等を把握した。

これらの課題等への対処について、司法書士、弁護士、税理士を相談員として招き、家計や法律にかかる相談会を実施した。

実施日 平成31年3月2日 午後1時～午後4時30分
相談者 12人

エ 講習会及び遺族と地域住民との交流促進

遺族、親族等が健康で不安なく生活していけるよう、医療関係者等を講師として招聘し、「ちゃーがんじゅう講座」を開催した。

(ア) テーマ 「発声上手は、長生上手」

講師 声楽家 小波津 隆氏

期日 平成30年11月24日(土)

参加者 90人

(イ) テーマ 「骨を丈夫にして若々しく生きる」

講師 沖縄赤十字病院 医師 大湾 一郎氏

期日 平成31年3月2日(土)

参加者 90人

オ 広報活動

広報誌「対馬丸通信」を2回発行 遺族や生存者及び協力会会員、支援者などに配付し、奄美大島における慰霊祭の状況や関係者聴き取り調査、那覇市市立上山中学校3年生による記念館説明パネルの英訳など、対馬丸記念会の活動や対馬丸記念館の運営状況等を広報した。

また、対馬丸事件のことを引き続き発信するため、那覇市内の全小・中学校(54校)に対して、対馬丸通信を配付した他、

県議会議員及び那覇市議会議員へ対馬丸通信を送付した。

(3) 子供達に対馬丸の悲惨な歴史を伝え平和を発信する事業

ア 子供達の平和学習推進事業

(ア) 那覇市教育委員会指導主事(平和行政担当)、平和専門家、那覇市内小・中学校教師各1名、対馬丸記念会理事長の5委員からなる「平和学習推進連携委員会」を開催し、小・中学校平和教育研修会、平和学習作品展等の実施について協議・決定した。

(イ) 那覇市教育委員会と共催で小・中学校合同平和教育研修会を5月と8月に開催した。(8月は浦添市も参加)

(ウ) 対馬丸事件に関し、遺族、生存者等の関係資料の聞き取り調査を実施した。対象者 60人

(エ) 資料のデジタル化に向けた対馬丸遺族会資料、対馬丸記念会資料、展示物の資料の読み込み、写真撮影、目録作成など一連の構築作業を終えた。

平成31年4月から「対馬丸デジタルアーカイブ」としてホームページからいろいろな画像が見られるようになった。

イ 子供達による平和活動発信事業

子供たちが日常的、主体的に平和活動、平和発信が行えるようにすることを目的として、「つしま丸児童合唱団」(活動日4回/月・於：記念館)の活動を推進した。(団人数29人)

合唱団は、6月の「沖縄全戦没者追悼式」、8月の「対馬丸慰霊祭」、10月の「那覇市戦没者追悼式」に出演して日頃の活動成果を披露し、招待者とともに平和への誓いを新たにした。

2 収益事業「物品販売・会議室賃貸事業」

自動販売機3台の販売手数料収入

書籍「対馬丸 沈む」の売上金収入

記念館会議室又は企画展示室の賃貸

3 その他事業「旭ヶ丘公園周辺緑化事業」

旭ヶ丘公園において白い花の咲くクメノサクラ2本を昨年度に引き続き植栽(10,000円)

4 法人会計「管理事業」

対馬丸記念館の管理運営を実施すると共に、対馬丸記念会理事会及び評議員会の開催、庶務経理事務等を実施した。